

# グローバルCOEプログラム 世界をリードする博士人材育成



有益な体験を生かして  
国際舞台で活躍してほしい

産業の国際競争力の向上と、科学技術創造立国をめざす日本において、その担い手となる若手研究者・技術者の育成を目的としたグローバルCOEプログラム。その意義と有用性を検討すべく、日立製作所の川村隆会長とプログラムで学ぶ学生とが、日本機械学会の松本洋一郎会長進行で座談会を行った。

## 産業技術の課題と可能性

松本 国際競争力においてわが国の置かれている現状は、必ずしも万全ではありません。新興国の経済成長や技術発展だけでなく、科学技術に対する予算、学生の博士課程への進学率、博士の学位を取得した人材が企業で十分に活躍できていないなどの問題もあります。

川村 日本の将来については、私も危惧するところです。新しい技術開発のための基礎研究、高度先進医療や介護、教育、環境などにおける潜在需要の掘り起こしが、ますます重要になると考えています。

松本 新たな技術開発や潜在需要の掘り起こしには、そこに携わる人材の資質が問われますね。

川村 そうですね。語学に苦手意識があったり、「自分はこの研究に従事してきたから、この開発だけにかかわりたい」という人は、グローバル化が進む産業界で十分に能力が発揮できない可能性が高いかもしれません。

松本 ここに集まっている学生さんたちは、グローバルCOEプログラムで様々な経験をされていると思いますが、そのあたりについてどのように感じますか。

浜本 私自身は、このプログラムに参加するまでどちらかというと、積極的に海外に行くよりも、研究室で自分の好きな研究だけに専念したいと思っていました。しかし、自分の研究を海外でプレゼンする機会をいただいた際、様々な国の人たちがこれまでに聞いたことのないような意見をくれ、別の国の人

と話すことで世界が格段に広がるんだと実感しました。日本の学会に参加していただけた自分も、結局そこで足踏みしていたんだなと気づきました。この経験で非常にアグレッシブになれたと思います。



## 経験を社会に生かすために

松原 私はグローバルCOEで10週間の海外プログラム、国際宇宙大学に参加しました。このプログラムでは、宇宙について工学から理学、法学、ビジネスまで幅広く学びます。参加者も宇宙機関や一般企業で働いている人など、バックグラウンドも様々で驚きました。普段と違う視点で物事を見たり考えたりすることの重要性を知り、そこで得たものを自分の研究へと生かしていくべきだと実感しています。それができる人材こそ、これからの博士課程には求められるのだとも思いました。

大山 私たちの大学では、グローバルCOEの国際シンポジウムを学生が中心となって企画・運営するという試みがあり、そこでは招待講演をしていただく先生も学生が決めることになっていました。普段読んでいた論文から、話を聞きたいと思っていて海外の先生に講演依頼のメールを送って内容の相談、スケジュール調整などを行い、シンポジウムに来ていただいていたのです。大きなイベントを運営したり自分の意思で何かを決定するという経験は、普段の研究ではなかなかできないとても貴重な体験だと思います。

松本 学生の活躍と産業界からのニーズを受け、この取り組みを今まで以上に社会に生かせる教育プログラムとして充実させていきたいと考えています。

川村 みなさんとても有益な体験をされているようですね。若い方の意欲と能力に触れることができたことをうれしく思っています。私は経団連で教育問題にもかかわっている中で、グローバルCOEについて広く伝えたいと考えています。この貴重な経験を生かして、今行っている研究を積極的に国際舞台に上げ、磨きをかけてください。みなさんが持っている有益なシーズと社会の潜在ニーズをつなげ、これからの日本をリードしてほしいと思います。

◆対談の詳細な内容は  
本日の「日経産業新聞」を  
ご覧ください。



### 東北大学「流動ダイナミクス知の融合教育研究世界拠点」

人類が直面する諸問題に関連する総合学術領域である流動ダイナミクスの国際研究教育拠点を確立し、充実した国際共同研究を通して、多面的な価値観をもった国際社会で活躍する中核の人材を育成する。



### 名古屋大学「マイクロ・ナノメカトロニクス教育研究拠点」

機械科学、材料科学に基礎を置くマイクロ・ナノメカトロニクスと、そのシステム化技術を体系化・総合化し、重要な応用分野である先端医療分野のニーズに対応できる科学技術の確立を狙う。



### 慶應義塾大学「環境共生・安全システムデザインの先導拠点」

人工物システムから社会システムまで、戦後日本が構築してきたあらゆるシステムのほころびを解決し、今後、社会が直面する環境共生・安全にかかわる複雑な問題を解決できる人材の育成を目指す。



### 東京大学「機械システム・イノベーション国際拠点」

革新的な機械システム創出に関連する分野において、産業界・学術界でリーダーとして活躍できる国際的に通用する人材を育成する。基礎・専門に加え、課題設定・解決能力、コミュニケーション能力などを養う多岐にわたるプログラムがある。



### 大阪大学「高機能化原子制御製造プロセス教育研究拠点」

高度な製造技術の創出と、これを担う人材の育成が目的。特に原子レベルの制御性と環境との調和性を重視し、基礎科学をもとに自然現象を探索し、原子制御製造技術の開発を推進する。



### 早稲田大学「グローバル ロボット アカデミア」

超高齢社会で不可欠な医療・福祉や生活支援などのロボット技術導入に向け、「高い学問知の構築力」と「実践的アイデアの創造力」を併せ持った「突破力」のある若手研究者・技術者を育てる。